

## 定置網漁業と体験漁業の協業化による経営改善

石川・宜野座定置網協会  
会 長 島袋博幸

### 1. 地域及び漁業の概要

私たちの住む石川市・宜野座村は、南北に細長い沖縄本島のほぼ中央に位置し、別名みほそ・てんぷす（方言で「おへそ」のこと）のまちと呼ばれ、石川市が「緑豊かな海浜のある文化住宅都市」、宜野座村が「水と緑と太陽の里」をキャッチフレーズにしている。人口は、石川市が約 22,800 人、宜野座村が約 5,200 人で、両市村とも本県の中心部にあることから道路交通網が発達している。

石川市漁協は、正組合員 45 名、准組合員 52 名の合計 97 名。宜野座村漁協は、正組合員 72 名、准組合員 46 名の合計 118 名の組合員で構成されている。漁業種類としては、両漁協とも刺網・パヤオ漁業・ソデイカ漁業・潜水器漁業・モズク養殖業を中心に、一本釣り・定置網漁業などが営まれている。石川市・宜野座村は、共に金武湾に面しており、この湾内では昔から定置網漁業が多く営まれている。

### 2. 課題選定の動機

石川市・宜野座村では、当初、石川市の伊波定置網グループ、泉小型定置網グループにおいて、定置網漁業だけでなく定置網漁船を利用した船釣りや定置網垣網付近に設置した筏による筏釣りなどの体験漁業、宜野座村の島袋定置網グループにおいては、定置網漁船に修学旅行生などを乗せた定置網体験漁業などを実施していた。しかし、経営体が脆弱であることによる人員不足や宣伝不足に悩まされていた。また、金武湾においては、本土復帰後進められてきた各種開発行為に伴う赤土流出などにより漁場環境が悪化しており、そのためか近年水揚げ量も減少傾向にある（図1）。よって、定置網漁業と体験漁業を複合化し効率的な操業を行いながら経営改善を図る目的で、平成14年に中核的漁業者協業体として県の認定を受けて石川・宜野座定置網協会を結成し、新たな取り組みを行っていくことにした。

### 3. 活動の概要

私たち石川・宜野座定置網協会の活動は、定置網漁業と体験漁業に分けられる。定置網漁業については、石川市では月曜日から金曜日まで毎日水揚げし、石川市漁協のセリ市場や那覇の県漁連市場へ出荷している。宜野座村では、月曜・水曜・金曜の週3回の水揚げで、名護漁協のセリ市場や那覇の県漁連市場へ出荷している。各地の市場で高い魚種、安い魚種があるので、水揚げされた種類と量によってどこの市場に出荷するか決めている。また、魚が多いと両地区とも石川市漁協を通して県内スーパーや近隣の鮮魚店へ出荷している。最近では、餌用として南部地区や離島の漁協へ出荷す

ることもある。

中核的漁業者協業体育成事業の導入については、平成14年度には、網洗い機の導入と体験漁業宣伝用のパンフレットを作成した(図3)。網洗い機については、高圧洗浄機を導入して労働力削減を図るとともに、網洗い作業時間の短縮を図った。今回導入した網洗い機は、陸上での網洗浄以外に、船に設置して網を上げずに海中で網を洗浄することが可能である。よって、網上げ作業の軽減や、今までは引き上げるのでできなかった側張りやフロートなどの洗浄も出来ることから、網成りが良くなり水揚げの増加が期待できる。また、労働時間の短縮により、より効率的に体験漁業を実施することが出来るようになった。体験漁業宣伝用パンフレットについては、県内ホテルなどへ配布して広報宣伝を図った。また、宜野座村商工会の協力により、宜野座村商工会ホームページ上で体験漁業の紹介及び参加者募集の呼びかけを行った。

平成15年度においては、体験漁業用定置網側張りの設置と定置網協会ホームページ作成及びパソコンの設置を行った。体験漁業用定置網側張りは、定置漁業権第5号に設置してあり、今後の定置網体験漁業の効率的な運用と水揚げの増加が期待できる。定置網協会ホームページ作成については、県内コンピュータ会社に委託して製作しており、石川・宜野座定置網協会の紹介や各種体験漁業の紹介と体験漁業の申し込みがインターネットを通して出来るようになってきている。これにより県外へ情報発信してさらに体験漁業の実績を伸ばしていきたい。

※定置網協会ホームページ <http://www.rik.ne.jp/teichiami>

#### 4. 波及効果

定置網協会を結成する以前は、石川と宜野座のそれぞれで水揚げ・網上げ・網洗いなど手間の掛かる作業を、その都度人を頼むなどして行っていた。また、作業を人に頼む場合には、人出の空く日曜日に作業をすることもあった。しかし、定置網協会を結成してからは、お互いに助け合いで計画的に作業を行うようになったため、日曜日に作業をすることなく休みを取れるようになり、それ以外にも人件費を大幅に削減することが出来た(表1)。また、船やその他の機器などが故障した場合にもお互いに助け合いながらこれまで以上に協力して操業を行っていくことが出来るようになった。

定置網漁業の操業技術についても、お互いの水揚げに同行するようになって気付くことも多くあり、これが技術の交換になってお互いの技術改良につながった。

体験漁業については、平成13年度に353人、平成14年度には579人、平成15年度は11月現在で432人となっており、年々増加している(図2)。体験漁業は、定置網体験漁業、船釣り、筏釣り、あんぶし漁・カニカゴ漁体験の4つを行っており、荒天で出港できない時は漁港内や防波堤での釣りに変更して天候に左右されない体験漁業を実施している。これらの体験漁業では、乗客への救命胴衣の着用、筏釣りで使用する筏への手すりの設置などの安全対策や、万一に備えて乗客に対して簡易保険を掛けている。保険については、現在共水連沖縄を通した短期レクリエーション保険を利用しているが、体験漁業の増加に伴い、漁船保険を通した長期保険に切替え、補償の充実と経費の節減を図っていきたい。

## 5. 今後の課題

現在、定置網漁業については効率的に操業できるようになったが、体験漁業において、実績としてまだまだ少ないので、今後、インターネットを通じた情報発信や県内向けのパンフレットの増刷などでさらに利用客を増やしていきたい。また、定置網漁業の利点は、生かして魚を捕れることなので、次年度は生簀を導入して活魚での出荷などの取り組みを行い、付加価値を付けて魚を出荷できるような仕組みを作ったり、生簀を利用して市場への出荷調整を行ってみたい。それ以外にも、石川・宜野座定置網協会のポスターを作って販売促進につなげていきたい。また、石川・宜野座の定置網では同じような魚が漁獲されるので、競争を避けてお互いを生かしながら共同で出荷するなどの取り組みをしていきたい。現在、今年度事業で設置した体験漁業用定置網を合わせると4ヶ統の定置網がある。これらをフル回転して水揚げの増大を図り、定置網体験学習と効率的に利用していくことによって利益の拡大を目指していきたい。

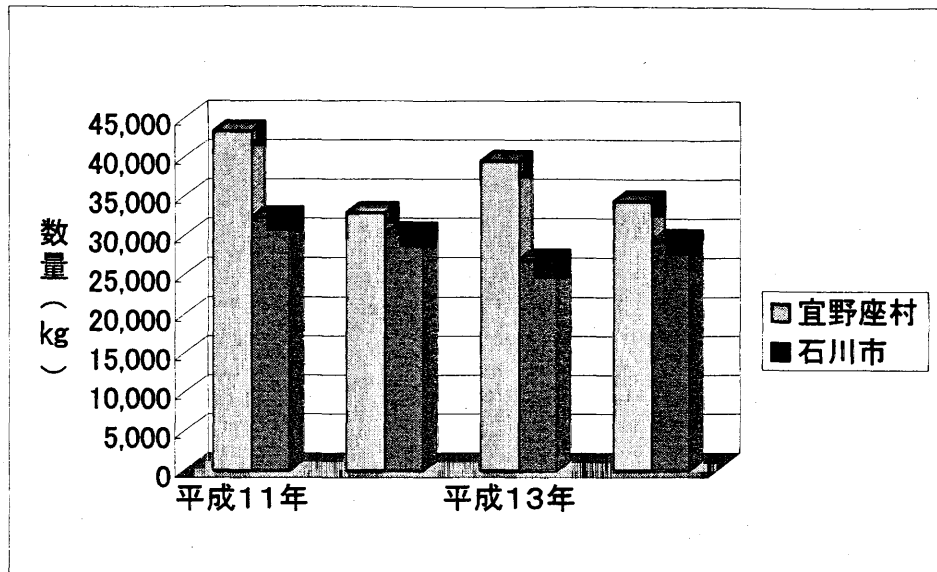


図1. 石川市・宜野座村の水揚げ数量の推移

表1. 網洗い機導入による経費節減

(網洗い機導入前)						
	人件費	日数	人数	網数	期間	
大型定置網	10,000(円)	7(日間/月)	5(名)	2(基)	12(ヶ月)	$=8,400,000(円/年)$
小型定置網	10,000(円)	3(日間/月)	2(名)	1(基)	12(ヶ月)	$=720,000(円/年)$
						<b>9,120,000(円/年)</b>
(網洗い機導入後)						
	人件費	日数	人数	網数	期間	
大型定置網	10,000(円)	4(日間/月)	5(名)	2(基)	12(ヶ月)	$=4,800,000(円/年)$
小型定置網	10,000(円)	2(日間/月)	2(名)	1(基)	12(ヶ月)	$=480,000(円/年)$
						<b>5,280,000(円/年)</b>
節減経費	$9,120,000(円/年) - 5,280,000(円/年) = 3,840,000(円/年)$					

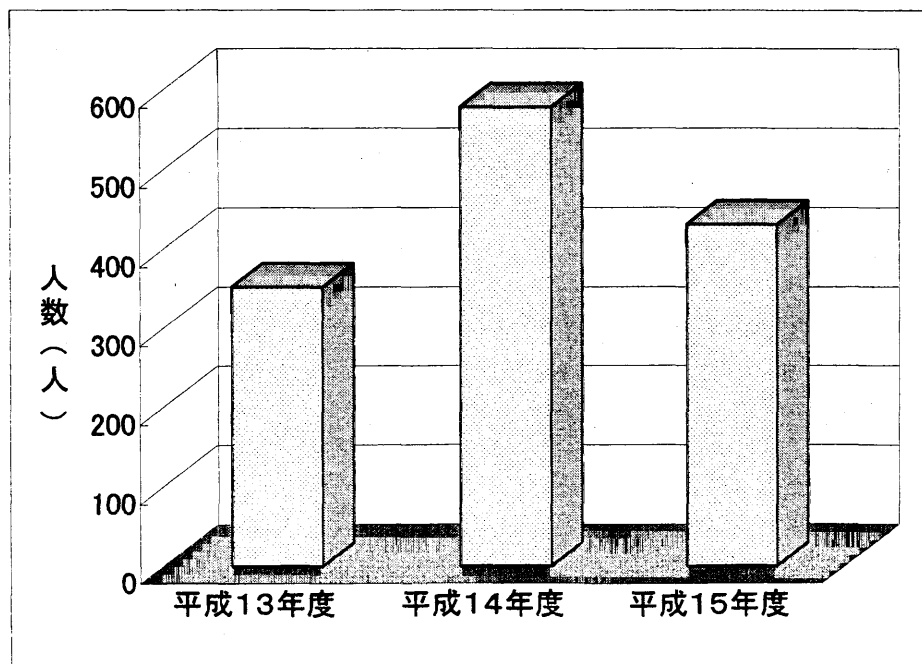


図2. 体験漁業動員数の変化

